

A large, abstract, rounded orange shape with a gradient from light to dark orange, resembling a liquid drop or a lens flare, occupies the lower two-thirds of the page. It has a glossy, reflective surface.

GSK Japan 医療・社会への貢献 2020

GSK 医学教育事業助成

「GSK 医学教育事業助成」は、日本の医療の質と知識の向上を支援するために、2016年より公募による医学関係学会／医会が独自に企画する教育事業の助成を開始しました。助成事業の採択は外部有識者で構成される審査委員会で審議・決定されます。

2020年の募集要項

募集する 医学教育事業	次に示す疾患領域に関する医学教育事業 【A】 ・呼吸器疾患 ・リウマチ・膠原病 ・ワクチン・予防接種 【B】 ・呼吸器疾患 ・泌尿器疾患
応募の資格	【A】 1,000人以上の正会員を有し、全国組織で運営されている医学関係学会／医会 但し、リウマチ・膠原病は会員数を問わない 【B】 2017年度 GSK 医学教育事業助成の被助成学会
助成金額	一事業に対して下記金額のとおり 【A】 【B】 250万～1,500万円
助成期間	単年度もしくは3年以下の期間
応募期間	2020年3月2日～2020年5月22日

※ 2020年度 GSK 医学教育事業助成の詳細については以下をご参照ください。

<https://jp.gsk.com/jp/research/ime-grant-2020/>

(2020年3月公開予定)



2019 年度採択学会／医会

学会／医会名（五十音順）	医学教育事業名称
日本呼吸器学会	呼吸器科医をめざす若手医師の育成と専門医の生涯教育
日本小児アレルギー学会	小児アレルギー スキルアップ コース
日本摂食嚥下 リハビリテーション学会	多職種連携を実践する人材育成モデル構築事業
日本泌尿器科学会	未来の卓越した泌尿器科医を創るグローバル人材の育成プログラム
日本皮膚科学会	皮膚科領域のスペシャリスト養成のための包括的教育プログラム
日本プライマリ・ケア連合学会	誤嚥性肺炎の多職種連携スキルアッププログラム Japan Aspiration pneumonia inter Professional team Educational Program (JAPEP)

※ GSK 医学教育事業助成の詳細については以下をご参照ください。

<https://jp.gsk.com/jp/research/ime-grant-2019/>



GSK ジャパン研究助成

「GSK ジャパン研究助成」は、日本における医学・生命科学および関連する科学の領域における若手研究者の創造的な研究を助成することを目的として、「競争的資金制度」である「科研費」を参考に公募制のもと 2014 年に開設されました。

外部有識者による厳正なる審査が行われた結果、2014 年度は 103 名、2015 年度は 106 名、2016 年度は 137 名、2017 年度は 126 名、2018 年度は 83 名の研究者に対し、助成を行いました。

2019 年度は 250 名を超える研究者よりご応募いただき、86 名の研究助成者が採択されました。

GSK は 2020 年度以降も研究助成を継続していきます。

※ GSK ジャパン研究助成の詳細については以下をご参照ください。

<https://jp.gsk.com/jp/research/glaxosmithkline-research-grant-2020/>



過去助成者による発表論文も掲載しております。

また、第 59 回日本呼吸器学会学術講演会コーヒーブレイクセミナーにて、2015 年度助成者より研究成果発表をしていただきました。

GSK の社会貢献活動

【社員からの募金を会社がマッチング】

GSK は全世界で 100 万人の子どもの命を救うことを目標に、2013 年から国際子ども支援 NGO セーブ・ザ・チルドレンとパートナーシップを組んでいます。

このパートナーシップを支える社員募金には日本の社員も積極的に参加しており、集まった募金の同額を会社がマッチングし寄附を行っています。2018 年は、平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）支援も含め、1,400 万円以上の寄附をおこないました。

【社員のボランティア活動を支援：Orange Day 取得者年間 1,800 人以上】

GSK では 2009 年より、世界中の社員に年間 1 日のボランティア休暇 Orange Day（オレンジ・デー）が付与されています。現在では 60%以上の社員がボランティア休暇を取得しており、その活動がしっかりと社内に浸透しています。普段の業務を離れ社会への貢献を通じて、多くの学びを得ることができるとても大切な 1 日となっています。



患者団体への学びの場の提供

GSK は、患者団体をサポートする活動を 10 年以上継続しておこなっています。

【J-PALS (患者団体代表者サミット) アカデミー】

GSK は 2006 年から毎年、患者団体を対象とした“学びとネットワーク構築の場”として、J-PALS (現; J-PALS アカデミー) を開催しています。患者団体同士や専門家との交流を通じて団体活動に必要な情報を学び、ネットワークを構築することを目的としています。2019 年は、「プレゼンテーションスキル」、「治療と就労の両立」をテーマに計 3 回開催しました。



【社員も患者さん中心を感じる機会に】

プログラムは、社内有志による組織横断的なプロジェクトメンバーにより作成されています。また、当日の進行・運営をサポートするために、全国の社員が当日サポートスタッフとして参加しています。2019 年は、3 回のプログラムを通して、患者団体から延べ 56 名が参加され、延べ 38 名の社員が当日のサポートにあたりました。社員にとっても“患者さん中心”を肌で感じることができる、大変貴重な機会となっています。



※ J-PALS: Japan Patient Advocacy Leaders Summit

J-PALS は、2002 年に米国 GSK で開催された PALS にならったもので、現在は、日本を含め世界 8 カ国で開催されています。